
愛してる

恋雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛してる

【Nコード】

N8564J

【作者名】

恋雲

【あらすじ】

応接室で仕事中的なにとっかのバカが来た。
で、僕を誘拐して…
なんか、予約？されたんだよ。
意味わかんないよね…。

「きよーやつ！」

「…何？」

仕事もあるだろうにまた、僕のもとに来ている外人。
名前をへなちよこデイーノ。

…赤ん坊がそう言ってたんだよ。

「なあ、デートしようぜ！」

いきなり来たと思えばそれが。
めんどくさいな。

こっちは仕事がたまってるっていうのに。

「いや」

「へ！？」

「だって寒いし仕事たまってる」

最近いろいろあつてできなかったからね。
草食動物とか小動物のせいだ。

「あなたこそ仕事は？」

マフィアってそんな暇なわけ？

「1週間缶詰で頑張ったから今週はフリーなんだ！」

そういえば先週1度も顔を見てないことを思い出す。

「あつそ」

ま、僕には関係ないけど。

「言わせといてそれかよ、たくっ……」

気がついたら僕はディーノに抱えられていた。

「……………え？」

「今日はおとなしくついて来る！」

いや、意味わかんないから。

今日も仕事終わらなかつたな…。

まあ取り合えず、

「下ろせ、バカ馬！！」

「いつでー！ー！！」

思いっきり殴ってやった。

「ほら、着いたぜ」

そこはオシャレなレストラン。

まだ、行ったことのない所だった。

「デートって食事？」

「これは基本だろ？」

「知らないよ」

でもお腹はすいているから中に入る。

席につくとすぐに運ばれて来た料理。

「ワオ…」

おいしそうなハンバーグだった。

「好きだろ？」

好きだよ。だからあなたは黙ってて。

と心の中で言う。

それから黙々と食べ完食。

デイーノは一人で話しながら食べてた。

「…で、恭弥」

ふと、名前を呼ばれた。

「何？」

「えっと、左手出して？」

言われた通りに手を差し出す。

スッ

綺麗なシルバーリングが僕の薬指にはめられた。

「プレゼントと…予約」

デイーノは真剣な目で僕を見てきた。

「僕、男」

「いや；わかってるから…」

「それでも好きなんだ。恭弥…愛してる」

愛してる、だって。

どうしよう、どうしよう、どうしよう…。

「どうすればいい？」

思わず聞いてしまった。

「は？え…っと、恭弥は俺のこと…？」

そう言われて考えてみる。

「嫌いだったらこんなことに付き合わない」

口も利かないし咬み殺してる、と思っ。

「じゃあ…好き？」

「…どちらかと言えば」

「俺ら付き合ってたんだよな？」

「一応ね」

「俺と結婚したい？」

「あなた次第だよ」

「それ…結婚の予約ってことなんだけど…」

「ああ、そう…っては？」

予約ってそういう意味なんだ。

「予約？」

聞き返すとコクリと頷かれた。

「近い将来、俺と結婚して下さい」

返答は決まってる。

「いいよ」

だって多分僕はディーノのことを

愛してる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8564j/>

愛してる

2010年10月15日17時38分発行